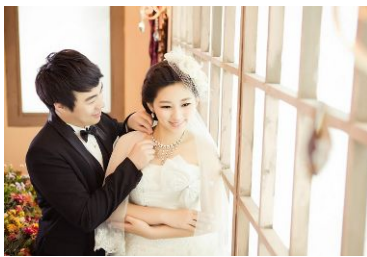


瀋陽駐在員事務所



瀋陽市内の結婚写真専門店
(100mにわたり10店舗が集中)



親戚の結婚写真

中国ブライダル市場～結婚記念写真～

中国政府の統計によると、2012年の年間婚姻数は約1,297万件。経済力の上昇、結婚文化の多様化の進展など、ウエディング市場は急速に拡大しています。記念写真、披露宴、新婚旅行、結婚指輪、新居、家具、家電、自動車など、結婚という人生の中で最も大切な行事では大きな経済効果が生まれます。

中国では結婚写真を立派なアルバムに仕立てます。写真を撮影するに当たっては、プロのカメラマン、スタイリスト、ヘアメイクアーティストなど、スーパーモデルしか受けられない様なサービスを、誰でも結婚写真の専門店で頼めば受けられます。一般的に結婚式の2～3カ月前に撮影し、式場で参加してくれた皆さんに見せます。また、新居の玄関や寝室のベッドの上にも飾ります。費用については実際に現像する写真の枚数やアルバムの品質などによって変わりますが、例えば、標準的な「4,988元コース」だと(約8万円)、20枚入りアルバム×2冊、額縁入り写真×3セット、室外での撮影、結婚式当日のウエディングドレス着用サービスとなっています。

10年前はスタジオ撮影だけだったものが、今は野外ロケや旅行撮影などバリエーションも増え、結婚写真の専門店は量(アルバムの厚さ)、豪華さ、個性などで、熾烈な顧客争奪戦を繰り広げています。結婚記念写真、結婚式・披露宴、新婚旅行と、ウエディングイベントにはたくさんのビジネスチャンスが潜在していると思います。

張 璐

ユジノサハリンスク駐在員事務所



試験会場の風景
(ユジノサハリンスク市)

受講者が年々増加する“ロシア語書き取り”試験

ロシア語の特徴は文法のルールがたくさんあることです。ロシア語の場合、表記通りに発音しない単語などがあり、また、句読点の打ち方にも色々あるため、非常に複雑で、正式な使い方に関しては様々なルールが存在します。ロシア人は学校教育で10年間、そのルールを勉強しても、大人になっても間違ってしまう人が非常に多いです。その意味で「ロシア語の聞き取り試験」は極めて意味深いプロジェクトになっています。

2004年ノボシビルスク市のボランティアグループが初めてこのテストを開催し、10年が経ちました。今年の試験は4月12日に世界352都市で実施され、参加者数は64千人を超え、徐々に世界中に普及し、毎年参加人数は増加しています(受験料は無料)。ユジノサハリンスク市は今年3回目の開催を行いました。昨年の参加者は23名、今年は100名まで増えました。そして、今年は私も受験しました。試験結果は5段階評価で、「5」の最高評価の成績を得た受験生は全体の僅か3%程度でした。私は因みに「4」でした。言語は自国文化にとって最も重要な要素です。この試験を通じて、多くのロシア人が正しい自国語を使用できる様、教育レベルが向上することは、ロシアにとっても素晴らしい事だと思います。

マリア・ヤロヴェンコ

ウラジオストク駐在員事務所



道内ハウスメーカーモデルルームを建設している住宅団地

ウラジオストクの住宅建設事情

ウラジオストクは、一昨年の APEC 開催以降、インフラ工事は一段落したものの、公共施設や住宅は依然として活発に建設されております。

4 月 23 日～25 日の期間で国際建材見本市が開催され、156 社が出店しておりました。ロシアの建材も寒冷地ならではの工夫がなされたものが増えてきた印象です。特に断熱材や外装材の展示もあり、北海道で行われている工法が益々役に立つのではないかと感じます。そのような中、道内ハウスメーカーが住宅内装事業に乗り出しました。ロシアでの新築住宅（マンションタイプ）はスケルトン（内装工事なし）渡しが一般的です。マンション購入者は自らキッチンやトイレ、クロスやフローリングといった住宅資材や器材を購入し、個別に内装工事発注をおこなっていくこととなります。

そこで、日本のように住宅リフォーム会社が一括して内装工事を請負う仕組みを展開していくことにビジネスチャンスを見つけたわけです。まずは、5 モデルルームを建設し、ウラジオストクの皆様に日本の施工技術や日本の住宅建材・器材を披露することから始めます。ウラジオストクの人口は約 60 万人ですが、市内から車で 1 時間半圏内の街を含めると約 100 万人のマーケットですので、非常に期待できる事業ではないかと思えます。

天間 幸生

カシコン銀行



カオサン通りにおける水かけ祭りの様子

タイの「お正月」

タイのお正月は 4 月で、4 月 13 日が元旦にあたります。13 日から 15 日の 3 日間は「ソンクラーン」と呼ばれ、タイ 2 大祭りの 1 つです。ソンクラーンの期間中は祝日となり、バンコクに出稼ぎに来ている地方出身者の方々も帰省し、家族での団楽を楽しみます。

期間中に行われるもっともポピュラーな習慣が、花びらをちらして香りをつけた小鉢いっぱいの水をかけるというものです。本来は穏やかな水かけでしたが、いつしか若者を中心にエスカレートし、バケツや水鉄砲を使い水をかけ合うようになりました。よって、ソンクラーンは別名「水かけ祭り」とも呼ばれます。4 月は熱帯に位置するタイ国において、平均最低気温が 30 を超えると言われ、タイ人も我慢出来ないほどの暑さとなります。その気候が水かけ祭りをエスカレートさせた要因の一つと言われています。

私も携帯電話や貴重品を守るビニール袋と水鉄砲を 200 パーツ（約 600 円程度）で購入し参加しました。しかし、現地のタイ人や騒ぐのが好きな欧米人が持つ強力な水鉄砲に全く太刀打ち出来ず、あっさりと敗退しました。

期間中にタイを訪れる旅行者も多いですが、水かけ祭りにご参加される方は安全に留意してご参加下さい。

伊藤 彰浩